



# 東北から始まる「いのち」を育む農林水産・食品産業の構築

## 令和4年度における活動実績・成果の概要

農学研究科では、「食と農免疫国際教育研究センター」「放射光生命農学センター」「次世代食産業創造センター」の3つのセンターを推進母体として、社会課題解決に取り組んでいます。それぞれの主な活動を紹介いたします。令和4年度は、農学部発足75周年を記念し、各センターにおいても様々な取組が行われました。

### ■食と農免疫国際教育研究センター（CFAI）

①海外の大学と連携による研究拠点形成の取組として、ワーゲニンゲン大学、ユトレヒト大学（オランダ）との合同シンポジウム「Future Prospects in Agriculture based on Immunity, Food Science, and Synchrotron Light」をワーゲニンゲンで開催しました（2023年1月16-18日）。

②国内では、「農学部75周年記念サイエンスカフェ」を開催し、CFAIの活動について高校生を含めて一般の方にわかりやすく紹介しました（2022年12月15日）。

（CFAIホームページ：<https://www.agri.tohoku.ac.jp/cfai/>）



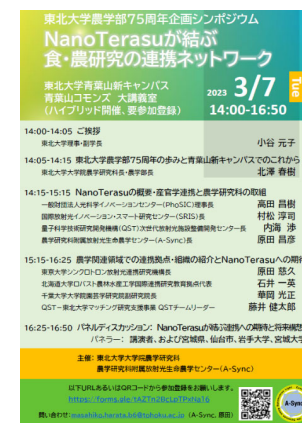
ワーゲニンゲンでのシンポジウム  
(2023.1.16)

### ■放射光生命農学センター（A-Sync）

①2024年度の次世代放射光施設（ナノテラス）の本格稼働に向け、宮城県や仙台市と連携し、地元を中心とした民間企業のベ14社と共同で、Spring-8などの国内既存放射光施設を利用して、農産物・食品の測定事例の創出に取り組みました。食・農領域における放射光施設の活用推進を図っています。

②農学部75周年企画シンポジウムとして、国内の研究機関、大学、自治体等との連携によるシンポジウム「Nano Terasuが結ぶ食・農研究の連携ネットワーク」を開催し、産学官連携による利用促進等について議論しました（2023年3月7日）。

（A-Syncホームページ：[https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri\\_a-sync/](https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri_a-sync/)）



シンポジウムポスター  
(2023.3.7)



## 東北から始まる「いのち」を育む農林水産・食品産業の構築

### 令和4年度における活動実績・成果の概要

#### ■次世代食産業創造センター（ICAF）

①次世代農業創造部門、水圏産業創造部門、フード・マテリアル部門、環境・生物多様性部門、復興農学部門を設置し、幅広い社会課題を解決するセンターとしての開設シンポジウムを開催（農学部75周年記念として開催）、産学官の幅広い領域方々との連携に向けた積極的な意見交換がなされました（2023.11.11）。

②次世代農業創造部門では、農業従事者の高齢化に伴い農業の担い手が減少している中で、農業生産を維持・発展させるためのリカレント教育のプログラムとして、『せんだい次世代スマート農業・生産技術ゼミ』（仙台市認定農業者等経営力強化事業）を実施しました。仙台市の認定農業者等を対象に、最先端の研究者・技術者から実践的な講義と現地実習を8か月に渡り、計20回開催しました。

③国際栄養学連合が4年に1度主催する国際栄養学会議が47年ぶりに日本で開催され、フード・マテリアル部門の教員が事務局を中心的に担いました。会議では約130件のシンポジウムが開催され、世界各地から約3700人の研究者が参加し、互いの研究成果の議論や市民との交流も積極的に行われました（2022年12月6－11日）。

④復興農学部門では研究に加え、福島浜通りの自治体と連携して人材育成や産業振興につなげるための実証事業（イノシシなどの獣害対策実証試験や地域特産品になりうる農産物の栽培試験）、人材育成・交流（福島浜通りエクステンションツアーなど）に取り組みました。

（ICAFホームページ：[https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri\\_icaf/](https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/center/agri_icaf/)）



開設シンポジウム（2022.11.11）



農業者育成事業実施風景



国際栄養学会議（2022.11.11）



新たな特産品検討の栽培試験